

図書館総合展 2020

山本ゼミ

シンポジウム インタビュー

愛知大学 文学部

●シンポジウム

日時 9月26日(土)

司会

磯間(山本ゼミ)

参加者

小野さん(紀伊國屋書店)

是住さん(田原市中央図書館)

島田さん(愛知大学豊橋図書館)

学生代表 渡辺(山本ゼミ)

[以下より敬称略]

磯間:まず初めにコロナ禍で経済活動の停止や自粛期間で図書館など閉館を余儀なくされ困ったことや、上半期にコロナが流行したことでお仕事の中で印象的だったことなどをお聞きしたいと思います。

是住:1番困ったのは日ごとに変わる国や県の方針に対応して図書館も動いていかななくてはならず、それに合わせて会議ですぐ明日からというかたちで対応しないといけなかったことです。

島田:やはり通常のサービスができないこと。学生さんも困っていたと思うんですが図書館のスタッフも何をしたらいいか、何ができるかを日々考えながら「今できるサービス」をみんなで考えていました。あとは先ほど是住館長も仰っていましたが国の方針によって大学の方針も変わってきて対応がすぐ変わってしまうんですね、その対応が変わる都度図書館もサービスが変わっていくのが本当に目まぐるしくて大変でしたね

小野:4月に休業要請が出たという段階で今まで当たり前に行ってきたこと、例えば訪問する、急ぎで物を届けるといった営業自体ができなくなったところが1番大変でした。また会社全体としてはコロナ禍で営業できない中、国内、海外にある店舗スタッフの雇用を継続しながら必要な仕事をしていくというのが苦労したことでした。

磯間:渡辺さんは何か困ったことはありましたか？

渡辺: 図書館に行って課題に必要な文献を読もうとしたときに閉館していたり開館時間が短くて困りました。

磯間: つづいてアンケートを見ながらの質問させていただきます。事前アンケート読書量の結果について、まず渡辺さんは自粛期間中読書量、読むジャンルに変化はありましたか？

渡辺: 3~4月は増えたが5月半ば以降大学の講義が再開されるようになると普段通りくらいまでもどりました。また雑誌を少し読むようになりました。

磯間: ありがとうございます。皆さんはこの結果について、特に売り上げや貸出冊数、ジャンルに関して何か思うことはありますか？

小野: 全体の売り上げとしてはやはり増えてはいませんが、外出できないこともありネット書店の売り上げは(その分)増えました。ジャンルでいくとウィルス関係の書籍や昔の小説のベストなどが再注目されたといったことはありましたが、全体として大きく売り上げが伸びたジャンルや分野の変化は認識していません。

是住: 貸出数はやはり減ってしまっていて、外出を控えている方がたくさんいらっしゃるの由来館者数も貸出冊数も減っていて今も例年に比べてまだ戻っていない状況です。ただ貸出冊数無制限にしていたことで来館者数の減りに比べて貸出冊数の減りはそれほど大きくないと思っています。ジャンルについては片付けの本とか園芸の本とかが多く貸出しされているかなという印象でした。

島田: 開館出来ていないので来館者数は確実に落ちています。開始直後からコンスタントに申し込みのあった郵送サービスについては、実施してよかったなと思います。ジャンルで言うとやはり授業で必要な本ですとかレポートに必要な本とか専門書がほとんどだったという印象です。

続いて図書館が利用できなかった間の情報行動・入手経路についてのアンケート結果なんですが、情報提供の役割を果たしているかといった観点について思うことはありますか？

ちなみに渡辺さんは SNS やインターネットを自粛期間中に使ったりしましたか？

渡辺:使っていました。大学図書館の郵送サービスはあまり利用しておらず、図書館の利用に制限があるときは書店で本の内容に目を通した上で購入するかインターネットを利用して知りたい情報を得ていました。

磯間:では皆さんこの結果について何かご意見ありますでしょうか？

是住:公共図書館について言うと市民の方の登録率は全国で見ると多いところでも3割4割くらいなんですね。(そう考えると)このくらいの数字で妥当なんじゃないかなと私は思います。

島田:私もこれくらいかなとは思いますが。ただ情報提供の役割を果たせていたかという点、電子書籍の LibrariE があまり利用されなかったことやお知らせの出しすぎで情報が受け入れられていないといった今後の課題もあり、果たせていないと思っています。

小野:やはりこのくらいなのかなと思っています。ただ“情報”の定義の仕方によってアンケートの結果が変わってくるのではないかなと。そして利用者の方が必要としている情報をしっかり認識していないと、必要な情報を入手するのは難しい状況だったのではないかなという印象です。

磯間:では最後に今後の展望など聞かせていただきたいです。

是住:田原市図書館では電子書籍の導入が遅れていたこともありそこは反省点だと思っています。今まで公共図書館向けの電子サービスで利用できる出版社が限られていたり、1冊あたりの金額や初期投資費用が高かったりして限られた予算を割くことは難しいと考えていたが電子書籍や電子図書館の導入は進めていかななくてはと思っています。そして場所としての図書館も大事になっており、人と関わる活動の拠点としての図書館をこの期間にどうやって果たしていくかを考えていかななくてはいけないと思っています。

島田:今後閉館をしたり滞在の制限をすることを考えると非来館型サービスを充実させていかななくてはいけないと思いました。図書館では新入生向けガイダンス、書庫を利用するための入庫ガイダンスをこれまでやってきて、それを映像化したものを学内システム Moodle にあげて図書館に来なくてもわかるようなしくみを作っています。そして電子書籍をこれからも増やすことや教科書を電子化できないかというのは前から話題になっていて、複数人で使えるテキストの導入を検討していきたいと思っています。そして居場所としての空間、ラーニングコモンズのようなみんなで何か一つのものを作り上げる

場の提供、そして落ち着ける場所としての図書館の在り方を今後周囲の状況も見つつ考えていかなければならないなと思っています。

小野:二人と重なる部分も多くあるが、やはり来館できない、通学できないという状況だと電子コンテンツの重要性がこれまで以上に増してくるという風に思っています。一例として、教科書の電子化はこれまで電子化することによる紙の本の売れ行きへの懸念から足踏みしていた傾向があったが、そうも言っていられない状況になってきたと出版社側も強く認識されています。今後今まで以上に必要なコンテンツが電子媒体として提供できるようになってくるのではないかと。しかし電子化の傾向が進む一方で逆の方向性として紙の本を手取るような実体験の重要性もこれまで以上に上がってくるのかなと思っています。

●インタビュー

現場の状況をより深く知るために、参加して頂いた方々にそれぞれインタビューを行った。

質問者

山本ゼミ学生

解答者

小野さん(紀伊國屋書店)

是住さん(田原市中央図書館)

島田さん(愛知大学豊橋図書館) 回答者順

[以下より敬称略]

紀伊國屋書店 小野さんへのインタビュー

Q1.緊急事態宣言前後での変化は？

【書店業界の変化】

書籍(紙媒体)は1996年をピークに売上げが低下している状態である。
今年の売上統計は以下の通りである。

2020年7月の推定販売額				
	書籍	月刊誌・コミック	週刊誌	全体
推定販売額	447億円	406億円	76億円	929億円
前年比	93%	106%	83%	97%
参考：出版科学研究所				

月刊誌・コミックが伸びているのはヒット作の影響が大きいと考えられるため比較が難しい。書籍雑誌は厳しい状況が続く。

【電子書籍の変化】

電子書籍は2016年から売上げの集計を始めてから伸び続けている。

コロナ渦を受けて、出版社の協力を得て、紀伊國屋書店電子書籍サービスで全文試読サービスを行ったところ、新規申込が増加した。

また、新聞・論文系のデータベースでは、自粛期間や学内閉鎖によって学外からのアクセスの需要が増えたため、リモートアクセスや臨時アクセス数を増加する等の支援サービスを行った。その後、契約内容の見直しや変更をするお客様もあった。

【備考】

紀伊國屋書店電子書籍サービス KinoDen

紀伊國屋書店で展開している法人向け電子書籍サービスの一つ。主に学術系の和書を中心に展開している。

リモートアクセス

学外からデータベースを利用できるようにパスワードを発行したり、システムでの利用を許可したりすること。

Q2.コロナ渦をきっかけに紙媒体から電子書籍への移行など媒体の変化はあったか？

【一般販売】

緊急事態宣言を受けて書店が臨時休業することになって、紙媒体の書籍を購入する手段として、紀伊國屋書店では紀伊國屋 Web ストアがあった。紀伊國屋 Web ストアでよく売れた日では前年比の売り上げの4倍だったり、月売上平均の2.5倍を記録したり、特徴的な売り上げを示した。対して、電子書籍も通常より良好な売り上げだったが特徴的な数値を示さなかった。現場の書店店員に伺うと、臨時休校の影響で児童書が特に売り上げがよかったとのことだった。その他、特徴のある動きを見せた分野は見受けられなかった。

【法人向け】

紀伊國屋書店電子書籍サービスの導入が前年比の4倍を記録した。LibrariEでは4月、5月で53件の申込があり、この数は前年の1年分の申込とほぼ同数である。コロナ渦に入る前の3カ月間を前期、コロナ渦に入って3カ月間を中期と設定して、サービスの利用実績を比較したところ、A大学では2倍、B大学では7倍という結果だった。実績が伸びているのは良い傾向だが、学生の在籍人数などで比較すると、まだまだ数字が伸びるのではないかと考えられる。学生へのサービスの認知に努めたい。

ジャンルの傾向として、小説などの読み物よりも新書などの学習で利用されるものの売れ行きが好調だった。この点について、大学図書館の司書さんが電子書籍サービスを書籍の補完ではなく、メインサービスとして利用するにあたって、選書内容に変化があったのではないかと考えられる。

【備考】

LibrariE

紀伊國屋書店が展開している法人向け電子書籍サービスの一つ。小説などの読み物や教養、趣味実用書を中心に扱う。

Q3. コロナ渦での変化は？

売り上げは Q.1 を参考。

コロナ渦が始まる前から学校図書館における電子書籍サービスへの関心が高まっていた。通信制高等学校では、全国的に展開するために電子書籍を積極的に導入したり、私立学校で端末を一人 1 台配布するのにあたり、LibrariE を導入するなどの実例がある。新型コロナウイルス感染症の流行が始まり、電子サービスはどんな市場でもニーズが高まった。電子書籍の導入に至るまでのスピード感があがり、電子書籍への理解も深まっているのではないと思う。今後の展望としては、電子書籍の必要性がまだまだ高まっているものの、紙媒体の需要も根強いいため、双方のバランスを取りながらの運営が必要だと思う。

【質疑応答】

Q.教科書が電子書籍へと移行していくのだろうか？

A.看護学では教科書が電子書籍でも利用されつつある。医学書院など独自で電子書籍サービスを展開している出版社もある。

また、企業では、企業側が新入社員向けの文献をまとめて購入して、Kinoppy を利用して閲覧してもらったという実用例がある。

【備考】

Kinoppy

紀伊國屋書店が展開している個人向け電子書籍サービス。小説・一般書からコミックまでを幅広く扱う。

Q.学問分野で電子書籍のニーズに変化はあるか？

医療系の学問分野では実習が行われるため、実習先で教科書を見たり、文字だけでは伝わりにくいものを写真や動画でわかりやすくできるように、出版社から電子書籍化が進んでいった。対して人文社会学系の学問は、実習がなかったり、文字を読み解く研究が多いため、医療系の学問分野と比べてまだまだニーズが低いのではないかと考えられる。

Q.教科書送付サービスで困ったことは？

インターネットを使用していずれでも注文することができるため、日によって注文数なども増減があることから、1日でもどのくらい注文が来るのかわからないことが難点だった。

困ったことではないが、教科書の注文が前年より多い印象を受けた。これは、オンライン講義が始まったことにより、教科書を使った講義が増えたのではないかと考えられる。

田原市立図書館 館長 是住さんへのインタビュー

Q1.新型コロナウイルス感染症が流行してからの変化は？ 【田原市図書館新型コロナウイルス対応経緯】

日付	田原市図書館	田原市	愛知県	国・他地域
12月～2月		2月25日田原市新型コロナウイルス感染症対策本部設置	1月愛知県内でも感染者発生 1月30日愛知県新型コロナウイルス感染症対策本部設置	12月中国武漢で新型コロナウイルス感染症確認 2月24日政府専門家会議が「これから1～2週間が瀬戸際だ」と警告
3月2日(月)		3月2日から市内小中学校の臨時休校が決定。全てのイベントの延期・中止措置や公共施設の制限実施開始	3月2日自主登校教室の設置を各市町村に要請	3月2日から全国の小中学校へ臨時休校を要請
3月3日(火)～3月24日(火)	図書館サービスの一部停止。予約本の貸出、返却のみ。おはなし会等のイベントを中止。			3月14日新型インフルエンザ等対策特別措置法改正 3月26日政府対策本部設置
3月4日(水)～3月24日(火)	嘱託職員を放課後子ども教室、児童クラブへ派遣			
4月1日(水)～4月12日(日)	閲覧サービス等一部再開(30分以内の利用推奨、閲覧席を閉引く、2階閲覧室、研究個室等の利用は停止)	体育館、武道場等屋内スポーツ施設は使用停止。フリースペース使用停止。	4月3日豊橋市で感染者発生 4月10日愛知県が独自の緊急事態宣言発表	4月7日東京都、大阪府をはじめとした7都府県を対象に緊急事態宣言発表
4月11日(土)～5月10日(日)	県独自の緊急事態宣言発令により、予約本に變更。開館時間10時～17時。貸出冊数無制限、貸出期間4週間に變更。		4月17日愛知県が休業要請。休業要請施設に図書館明記	4月16日緊急事態宣言を全国に拡大。愛知県は特定警戒都道府県に指定。
4月17日(金)～5月10日(日)	愛知県緊急事態宣言が発令され、休業協力要請施設の対象となったため全館臨時休館。4月21日～5月10日まで出勤者削減のため2班に分けて在宅勤務の実施	国や県の緊急事態宣言及び緊急事態措置を受け、5月10日までのイベントはすべて中止、多くの公共施設を閉館。		
5月12日(火)～5月17日(日)	予約本の貸出、返却のみサービス一部再開 開館時間10時～17時。貸出冊数無制限、貸出期間4週間			5月14日39県で緊急事態宣言解除
5月19日(火)～5月31日(日)	閲覧サービス再開。30分以内の利用推奨。 開館時間10時～17時。貸出冊数無制限、貸出期間4週間	その他の公共施設も閉館利用は市内に限る条件つき 18日以降学校臨時登校開始	学校は18日以降の分散登校を可能に 5月26日愛知県緊急事態宣言及び愛知県緊急事態措置を解除	5月21日関西圏の3府県で緊急事態宣言解除 5月25日東京など首都圏1都3県と北海道も緊急事態宣言解除
6月2日(火)～6月14日(日)	開館時間通常化 30分以内の利用推奨。 貸出冊数無制限、貸出期間4週間	6月2日から学校再開		
6月16日(火)～	1時間以内の利用制限 貸出規則通常化 おはなし会、音読タイム、音訳講座再開		7月15日に県内の感染者数が16人となる。	東京や大阪での感染者数が増える
7月～	8月12日県の「安全・安心宣言施設」登録。一日に数回の閲覧席の消毒開始。	7月31日田原市で1人目の感染確認 8月1日～8月16日まで市内小中学校夏季休業	7月21日に「警戒領域」、7月29日に「厳重警戒」発表 8月6日～24日まで県独自の緊急事態宣言発表	

【利用者の変化】

高齢者や子どもは利用を控えている印象があった。

コロナへの意識が人によって異なるため、「田原市は感染者が少ないから通常のサービスでもいいじゃないか」という意見もあれば、「開館して大丈夫なのか」と心配する声など様々な意見をもらった。

Q2. コロナ渦をきっかけに貸出本の分野に特徴や変化はあったか？

A. 統計データがないため裏付けがないが、当館職員に伺ったところ次のような特徴がわかった。

予約が殺到した本は ZOOM の使い方に関する本と「ペスト」(カミュ 著)に予約が殺到した。それに加えてマスクの作り方など個別に需要のある本が貸し出されていた。また、子どもたちが外で遊ぶ機会が減ったことで大型絵本の貸出が増えた。

Q3. 新型コロナウイルス感染症が拡大して困ったことは？

A. 休館するとサービスが停止してしまうため、電子系のサービスを増やさなければならなかったことが反省点である。田原市では国からのコロナ関連の補助金は農家等の補償のために全額使用することによって、図書館には配分されなかったため、他館で行われた本の消毒機や電子書籍の導入に補助金を利用できなかった。予算があれば郵送サービス・宅配サービスも始めたかった。消毒液や飛沫防止シートなどは、予算内で比較的早めに入手できたため特に困ることはなかった。

Q3. 今後どのようにサービスを展開していくか？

A. 市の方針に従ってサービスを緩和させる方針である。現在では、おはなし会を通常定員の半数で開催したり、10月10日から滞在時間を3時間に延ばして閲覧席を若干数増やす予定である。12月には講演会やイベントを定員制限を設けながら開催する予定だ。また、移動図書館や高齢者福祉施設巡回などアウトリーチサービスを徐々に緩和させていきたい。利用者が家でも見られるように電子書籍やオーディオブックのサービスを展開したいと思っているため、来年の予算の要求への準備をしている。

【質疑応答】

Q. 安心・安全宣言施設に登録されたことで変化したことは？

A.利用者に対して感染症対策をしっかり行っている施設だということを知ってもらうためののだが、目に見えて変化がわかるものではない。当館が感染症対策をしっかりしていることをアピールしていきたい。

愛知大学豊橋図書館 職員 島田さんへのインタビュー

Q1.新型コロナウイルス感染症が拡大して困ったことは？

A. 3月の休館では一時的なものだろうと思っていたが、緊急事態宣言が発令されて当分通常のサービスができないことを実感。それが困った。それから制限がある中でできることは何かを模索していった。

現在、経済状態が少しずつ改善に向かう中大学だけが取り残された状態を仕方ないと思いつつも、どのようにサービスを再開させていくかが課題と考えている。この点は、全くサービスが展開できなかった休館時とは大きく異なる点である。

Q2.コロナ渦で教育研究を支えるサービスをどのように展開したか？

A. 5月中旬から卒業年次生を対象に郵送・複写サービスを開始した。それに伴ってメールレファレンスに問い合わせもあったが、対面でのレファレンスサービスよりも時間がかかること、意思疎通の難しさを感じた。また、メールレファレンスの存在を公にしていなかったことや、他大学の大学図書館で行われていた ZOOM でのレファレンスを投函でも行えばよかったという反省点がある。

6月中に同サービスを全学年に展開し、他大学等への ILL サービスを再開。早い段階で低学年の学生にもサービスを再開できてよかったが、ILL に関してはまだ休館中の大学図書館も多かったため、依頼先を探すことに苦労した。

Q3.今後のサービスはどのように展開するか？

A. (前の質問で答えた)反省点をいかして、今後はオンラインレファレンス、メールレファレンスのアピールを行いたい。また、図書館ホームページや LibrariE を利用して電子書籍の展示を行ってみたい。

以前は講義内で利用ガイダンスを行ったり、図書館が独自に呼びかけ実施していたが、対面で行うことが難しくなった。大学図書館に足を運ばなくても、どんなサービスが利用できるかわかるように、図書館利用ガイダンスと入庫ガイダンスの動画を作成した。資料の探し方やホームページの使い方をガ

イダンスした動画を3年前から掲載している。これもアピールして、上手く活用してもらえるようにしていきたい。

【質疑応答】

Q.感染症対策を行うことで困ったことは？

A.消毒液や飛沫防止シートは大学側に用意してもらったため困ることがなかった。

困ったことではないが、閲覧席を指定して利用してもらうために、アプリを開発した。閲覧席の予約をスムーズにし、誰がどの席に座っているかすぐにわかるようになった。

苦勞よりも、コロナ禍でアイデアを出し合って試行錯誤していくことで職員の中で連帯感が強まったことがよかった点だと思う。

Q.シンポジウムの中で、郵送サービスにおいて研究文献以外での利用がはばかれたとの分析、意見があった。先ほども利用者へのアピールが大事だと言っていたがこのような点も含まれるのか。

A.開始時は依頼件数が未知数であったため大々的に告知はしなかったが、感染状況が悪化して郵送サービスが中心になる場合は、どんな本でも受け付けていることをアナウンスしたいと思っている。

Q.郵送サービスは期間限定のサービスとして行うのか。

A.当図書館は愛知大学活動制限指針に基づいてサービスを提供しているため、レベル0になれば中止する予定である。通学が難しい学生を対象にサービスを続けたいが、予算の関係上送料が学生側の負担になるなど現時点とは変更があるかもしれない。